

## 窯業同窓会「福島第1原発」見学会紀行文

H19年の暮、12月21日（金）新宿センタービル前8時30分出發40名の大型バスが常磐自動車道を北に向かい、一路福島県浜通り北部大熊町の東電福島原発を目指して順調に見学ツアーを続けて居りました。東工大窯業同窓会関東支部が主催する毎年の工場見学会は同窓会員の知的交流と大学在學生を交えて日本の最先端の技術や文化を吸収しつつ会の活性化と母校のステータスUPを狙ったものです。本年は人類のエネルギー・地球環境対応の厳しさから、原子力利用の最先端である原子力発電所に的を絞り、乙葉啓一氏（S33電気卒・東電OB）のお骨折りにより、日本原子力発電所の元祖ともいえる東電福島原発（S46年1号機スタート）見学が実現した。今回見学の目玉は、①6基・総出力469・6万KW ②累計設備費約5000億円で地域を活性化させた。③安全対策に成果を挙げ目立つトラブルが少ない等新潟中越地震での柏崎刈羽原発（7基・821万KW・2兆6千億円で世界1）長期休止で関心の高い地震対策を含めて多くを学んだ。バスの往復路に7時間を要することから、有効利用を図り東電原発OBの蔵前技術士会員の石井陽一郎氏（S29年電気卒・東電OB）に「日本の原子力エネルギーを考える」（テキスト18頁）をテーマに車中の講義をお願いした。今回は中島准教授はじめ学生9名と蔵前技術士会（共催）の参加や蔵前俳句会・ハートの会等多様なメンバーで車中は賑わった。正午前バスは広野ICで高速を降り広野サッカー場設備・J-village（東電の提供）で東電の蔵前OBの吉澤厚文部長（S58修士・原子核卒）と大沢高志部長（S61修士・精機卒）の出迎いを頂く。心尽くしの昼食を戴きながら東電の地域交流の一環としての本施設等の紹介があり、太平洋を望む緑の観景にしばし見とれる。その後予定の14時前発電所のサービスホールに到着した。蔵前OBを主体に9名もの東電スタッフに迎えられ、各人の自己紹介・発電所の概要と現況・安全対策・廃棄物処理に到る周到な説明と質疑応答の上、2班に分かれ2時間に亘る原子炉現場の見学に入る。まずは原子炉発電の操作訓練用の「サイトシュミレーター」を見学して、次に2号機原子炉建屋から発電建屋に亘る案内を頂いた。炉型は沸騰水型軽水炉（BWR）であり出力78・4万KWで所内2番目の大きさながら建物一辺約46mの規模に感銘を覚えた。所内350万平方メートルで外注社員をふくめ7千人の巨大原子力発電所の威容と将来の人類エネルギーの源泉たる技術の結晶に触れる事が出来ました。最後の質問タイムでは将来の原子炉の有り方等、高度の質問続出で流石蔵前と感心され、ホール玄関で記念の集合写真（下記写真）を撮りました。予定を延長して16時半に案内の皆さんに感謝の手を振り帰途に就いた。帰路のバス車中はビール・酒を片手でテキスト末尾にある石井講師出題の12問のクイズへの回答と学生全員の本日見学会の感想発表をもとに全員でエネルギー課題に関する大討論会が展開された。かくして池袋到着20時までの3時間半は寝る間も無くアツという間に楽しく有意義な見学会をおえて蔵前人の誇りを味わう旅となった。以上

文責尾島正男（S32・化工）



東電福島第1原発サービスホール玄関集合写真

原発見学会吟句抄

- |                 |    |
|-----------------|----|
| ・ 冬日浴ぶ原子炉棟の長き影  | 草芥 |
| ・ 麗らかに原子核焚く冬の晴れ | 千紫 |
| ・ 原発に地球を語る冬の灘   | 正男 |
| ・ 同窓の原発探訪老いの暮れ  | 峯鳥 |
| ・ 暮れ早しバスの討論眠らせず | 尚隆 |